

6 各地区で活躍している団体の紹介

自主企画で目覚めた次代のリーダーたち ～さつま町ジュニア・リーダークラブ「ほたる」～

さつま町教育委員会社会教育課
主事 竹山 結貴

1 はじめに

さつま町ジュニア・リーダークラブ「ほたる」は、中学1年生から高校3年生までの会員が子供たちとの交流を行ったり、地域や町の行事（イベント）等でボランティア活動に取り組んだりする等、地域社会の発展に寄与することを目的とし、会員でアイデアを出し合い、様々な活動を行っている団体である。



【町イベントで受付を担当するJLC生】

令和7年度のジュニア・リーダークラブ「ほたる」の会員（以下JLC生）は、中学生10人、高校生2人の合計12人のメンバーで構成され、月1回の定例会をはじめ、町内外で開催される研修会や交流会への参加、町内で行われるイベント等での司会進行や運営スタッフとして活躍している。

2 活動の紹介

(1) 定例会

JLC「ほたる」では、月に1回程度定例会を開き、直近で予定されている行事予定の確認や役割分担等の話し合い、自主企画イベントの話し合い、レクリエーションなどを通して会員同士の親睦や資質向上に努めている。



【定例会の様子】

(2) 町子ども会リーダー研修会

毎年6月に町子ども会育成連絡協議会が開催している町子ども会リーダー研修会に参加し、入所式・退所式の司会進行やオリエンテーション時のアイスブレイクなどを担当している。また、オリエンテーリングや危険予知トレーニングなどの活動中もリーダーとしての自覚をもち、同じ班の小学生を先導している。



【町子ども会リーダー研修会の様子】

(3) 自主企画イベント第1弾「ミッション型鬼ごっこ」

令和6年4月にJLC生が自分たちでやりたい企画として考えたイベント「ミッション型鬼ごっこ」を、廃校となった旧鶴田小学校で開催した。このイベントは、某人気テレビ番組を参考に、開催に向けて半年間話し合いを進めてきた。町内の小学5年生から中学3年生に募集をかけたところ、定員20人に対して、定員を上回る申込みがあった。



【司会進行を務めたJLC生】

当日の司会進行からルール説明、危険個所の確認などすべてをJLC生が務めた。鬼役を町青年団が引き受け、本物そっくりの真っ黒のスーツにサングラスをかけ、参加者らを追いかけて、参加者の「キャー」という悲鳴が校舎中に響き渡った。参加者はハンター（鬼）から逃げ回りながら、与えられたミッションに挑んだ。町青年団との異年齢交流も行うことができ、楽しく有意義な活動となった。



【ハンターを務めた町青年団】

(4) 自主企画イベント第2弾「廃校からの挑戦状（謎解きイベント）」

令和7年3月に自主企画イベント第2弾として「廃校からの挑戦状（謎解きイベント）」を、第1弾と同じく廃校となった旧鶴田小学校で開催した。第1弾が大変好評であったため、会員で第2弾に向けて半年間話し合いを進めてきた。町内の小学3年生から中学3年生に募集をかけ、定員30人枠がすぐに埋まるほどの人気であった。参加者は2～3人組のグループに分かれ、JLC会員とペットボトルボウリングや紙飛行機飛ばしなどの7ミッションで対決。攻略するたびに謎が出題され、謎を解くと最後の部屋であるお化け屋敷に挑め、悲鳴をあげながら脱出した。イベントを通して子供たちが笑顔で楽しそうに活動をしているのが印象的で、イベントは大成功となった。



【お化け屋敷の準備をするJLC生】



【JLC生とトランプタワー対決をする参加者】

3 おわりに

ジュニア・リーダークラブ「ほたる」の活動の一例を紹介させていただいたが、コロナ禍による3年間の活動休止等の影響もあり、会員の経験不足や新規入会者の減少などの課題があった。会員が少ない中でもJLC「ほたる」を、そして、さつま町を盛り上げたいとの思いで、自分たちで企画運営したイベントの開催に至り、開催後には新規入会もあって、会員増につながった。現在も満足するほどの会員がいるわけではないが、課題に対して自分たちでできることを模索し、話し合う会員らの姿は非常に頼もしく、また誇らしく感じる。ジュニア・リーダーとして町を引っ張る子供たちの活躍を期待しながら、会員らの活動を支えていきたい。また、町青年団との交流によって先輩たちの姿に憧れをもち、JLC「ほたる」卒業後にいずれ町青年団に入り、さつま町を盛り上げてくれることを願う。

地域に根差したおはなしグループをめざして

なかたねおはなしパレット
代表 牧 智恵美

1 はじめに

鹿児島県本土南端から約 40km 南にある種子島は鉄砲伝来・ロケットの島として有名で、近年は自然豊かなサーフィンの聖地としても知られており、種子島の中央部に位置する中種子町は農業や畜産業が主体の町である。

「なかたねおはなしパレット」は自然豊かな環境で育っている中種子町の子供たちに本を通して豊かな感性を育むお手伝いをしてあげたいという思いから平成 17 年に結成した。グループの名前は、メンバーがもつそれぞれの色を合わせて素敵なおはなしを出していきたいという考えで「なかたねおはなしパレット」と名付けた。

2 これまでの活動内容

主な活動は、毎月第 4 土曜日に乳幼児や幼児を対象にして中央公民館で行うおはなし会、幼児教室等へのおはなし出張会、中種子町が主催する幼稚園・保育所・小学校で行う「なかたね読み聞かせ会」、中種子特別支援学校の読み聞かせ会などである。

おはなし会の内容は、絵本の読み聞かせ、わらべ歌や指遊び、パネルシアターやエプロンシアターなどを中心に子供たちと一緒に楽しく活動をしており、依頼があれば町外でも出向くようにしている。無理のない範囲で「できる人ができる時にできることを！」を合言葉にして活動を続けてきた。



【おはなし会の様子】



【読み聞かせ会の様子】

3 スキルアップのための取組

毎月行っている定例会では、研修に参加したメンバーが得た知識を全員で共有し、本の紹介、作品のアイデアなどを話合うことで充実した時間を過ごしている。こうした活発な意見交換を通じてメンバーの意識が向上し信頼が深まっていくことが活動継続の主軸になっている。

さらに、スキル向上をめざして外部講師を招いた研修会を開催しており、実践を交えながら読書指導法や技術など、子供たちに本の魅力を伝えるための具体的な手法を学んでいる。例えば、令和 6 年 10 月 26 日には植村紀子氏をお招きし、「ことばであっぽー！ どんも わーも 親も子も～読書における言葉の魅力～」というテーマで研修会を開催した。

中種子町教育委員会社会教育課の後援をいただき、子供の読書に携わる関係者にも広く声を掛けたことで多くの参加者のスキル向上につながっただけでなく、中種子町全体に読書推進の輪が広まったことを実感した。

4 種子島の方言を伝える

現在の活動の中で、「ふるさとの種子島をずっと忘れないでいてほしい」という願いを込めて、種子島の方言を使った演目を取り入れている。種子島の民話を語る他に、種子島の方言を楽しく伝えることを意識して方言の響きやリズムを楽しむ言葉遊び等を行っているが、この活動の中で新たに取入れたのが「ろっぼう」だ。

「ろっぼう」とは、種子島に昔から伝わるユーモアたっぷりのおもしろ話のことで、早口で語られる物語の形式として本州から伝わってきたと言われている。南種子町で行われた研修会で「ろっぼう」を知り、中種子町の子供たちにもこの楽しさを伝えたいと考えて、小学校の読み聞かせ会で披露したところ子供たちにも先生方にも大好評だった。

生まれ育った土地の言葉を知り、好きになるということは、他の地域の文化や言葉にも敬意を抱き、思いやりの心を育むことにつながるのではないだろうか。今後も方言のおもしろさや何とも言えない方言の温かさを感じてもらえるよう、子供たちに伝えていきたい。

5 おわりに

子供を対象にした読み聞かせ活動を始めた頃は、子供のためという気持ちが大きかったが、この活動を続けていくうちに読み手自身の成長や生きがいになっていることに気が付いた。けれども、現在はグループメンバーの減少や高齢化が課題であり、この活動の楽しさをもっとアピールして、同じ気持ちで活動してくれる人を増やしていければと考えている。これからもメンバーの心を一つにして、それぞれの色を生かしながら子供たちと共に成長していきたい。

【表彰等経歴】

平成 27 年度 熊毛地区社会教育振興会表彰 熊毛地区社会教育関係優良団体
平成 29 年度 鹿児島県図書館協会表彰 優良読書グループ
平成 29 年度 鹿児島県教育委員会表彰 子どもの読書活動推進優良団体
平成 31 年度 文部科学大臣表彰 子供の読書活動優秀実践団体
令和 2 年度 たねやくきらめき表彰



【研修会の様子】



【「ろっぼう」を披露する様子】

生涯学習センターが一体となった健康づくりと生涯学習への取組

徳之島町教育委員会社会教育課
課長補佐 遠藤 智

1 はじめに

本町を含む徳之島は、多くの固有種が生息することと生態系の多様性が評価され、令和3年7月26日に「奄美群島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」として世界自然遺産に登録された。

また、文化面では「徳之島の餅もらい行事」が、令和6年5月7日付けで県指定の無形民俗文化財になった。餅もらい行事は、五穀豊穡や集落の繁栄を願い、唄い踊りながら集落内や家々を回り、餅や菓子をもらう行事で、奄美諸島以南に点在しているが、徳之島ではアキムチ、ムチタボレ、イッサンサンなど様々な名称で各集落に伝承されている。

このように豊かな自然に恵まれ、地域独自の文化が育まれている島である。

2 公民館講座での取組

(1) 公民館講座について

中央公民館の公民館講座として今年度の成人向けに25講座、子供向けに6講座を開講しているが、近年の健康志向への高まりに合わせ、音楽や歌に合わせて楽しく踊り身体を動かす講座を昨年度の2講座から4講座へ倍増し、受講生のニーズに対応していることが特色として挙げられる。

(2) リズム体操講座について

公民館講座の中の一つが「しぐんさ～ゆん リズム体操」というリズム体操講座である。「しぐんさ～ゆん」とは、島口（方言）で「簡単にできる」という意味で、年齢に関係なく気軽に参加してほしいという思いで命名された。講師を務める「TOYOMI」さんは、地元で活動しているダンススタジオで長年指導されているが、ダンススタジオのメンバーは若年層が主体であることから、より上の世代でも気軽にダンスを楽しんでほしいと考え、昨年度から2会場で開講した。昭和世代なら皆が知っている歌謡曲を使った振り付けが好評で、受講生の人気が高いことから、今年度は1会場増やして募集したが、締め切り前に定員に達するほどの人気だった。



【リズム体操を楽しむ受講生】

(3) 伝統行事とのつながり

さらに、今年度新たに開講した「歌レクサ」は、リズム体操講座より上の世代の方々が集まり、レクリエーションダンスを楽しみたいとの要望から始まった。これらのことから、前述した餅もらい行事のように、歌い踊りながら体を動かすことが住民の楽しみとして根付いていることが分かる。健康づくりや認知機能低下の防止にも役立つことから、一石二鳥の取組と言えるのではないだろうか。

3 生涯学習に向けた取組

(1) 「わきや島塾」とは

生涯学習の一環として、徳之島町立図書館が令和5年度から一般向けに実施しているのが「わきや島塾」である。講師を郷土資料館の職員と外部講師が務め、徳之島の自然の豊かさや地域の特徴を再認識する機会となっている。

この講座を始めたきっかけは、島に住んでいながらも、身近なものについてこそ意外と知らないことが多いと感じていたからである。例えば、利用者から島に関する質問をされ、図書館職員が蔵書などを調べて提示しても、専門書が多くて分かりやすく説明することが難しいのが悩みの一つであった。

そこで、自然や歴史の面から分かる島の成り立ち、島の年中行事や食文化等を座学で学び、さらに、町内を実際に歩きながら亀津の街がどのように形成されたかを学ぶなど、全5回の講座で郷土の魅力を改めて知る場としている。



【「わきや島塾」の様子】

(2) 「島のむんがたり講座」について

徳之島町では、平成30年度から約50年ぶりの町誌の編さん事業に取り組み、自然編、民俗編、通史編2刊、簡易版（徳之島学へのいざない）の5刊を刊行した。この過程で町誌編さん室が収集した資料等を有効活用することを目的に、今年度から「島のむんがたり講座」を開講した。

第1回の講座では古写真を活用し、現在と比べることで暮らしの変化をビジュアルで学ぶことができた。第2回、第3回は郷土資料館が収蔵する資料等を活用し、島の歴史と文化を具体的に学習。第4回はフィールドワークで街の移り変わりを実感した。幅広い世代が島の歴史や文化への理解を深め、郷土への誇りをもてる場となるような講座を目指している。



【「島のむんがたり講座」の様子】

4 おわりに

公民館講座については、共通の目的や趣味をもった人々が集い交流する場になり、中でも三味線や郷土料理の講座は、いわゆる転勤族の家族が積極的に受講しており、地元住民と親睦を深める場にもなっている。一方で、60～70歳代の受講生が全体の6割を占め、女性の比率が圧倒的に高いことから、若い世代と男性の受講生をいかにして増やすかが課題となっている。

「わきや島塾」と「島のむんがたり講座」に関しては、それぞれ図書館利用者や町民に参加を呼びかけ、興味のある講座のみでの受講を可としている。受講者数は20～30人程度で成人の受講者がほとんどだが、「島のむんがたり講座」では小学生の姿も見られる。

社会教育の場としては、著名人や専門家を招いた講演会などの方が多くの参加者を集められ、話の内容に感銘を受けることも確かである。ただ、その学習内容の深まりに関しては、一過性に終わっているようにも思われる。それに対して上記の2講座は、受講者自らの学ぼうという意識が強いように感じられ、その学びは持続的であると考えられる。

今後は、公民館講座においては、時代の変化に対応しつつも、島ならではの住民性を踏まえた講座を工夫することで、世代ギャップを埋め、受講生の増加を図りたい。また、生涯学習に向けた取組では、各講座の受講生アンケートの結果を踏まえ、住民のニーズに対応していきたい。これらの取組を継続することで、郷土の自然や歴史、文化を理解し、豊かな郷土愛を育むことにつながるものと期待している。